

雑誌『共産党人』、『党的生活』の論文目録

抗日戦争中華北華中一帯に広がった中共の根拠地、各辺区では、各種の機関誌を発行していた。それらの中で、最も代表的で、また今日われわれが利用できるものは、1937年から1941年まで、中共中央の機関誌として発行されていた『解放』である。その他の雑誌については、それらが延安時期における中共の理論的發展や、組織活動を分析した重要な論文を含んでいるにもかかわらず、残念ながら、まだ一般的に利用しうる段階には至っていない。

中共が延安時期に出版していた党の専門的機関誌『共産党人』の存在については、言うまでもなく、『毛沢東選集』に集録されている毛の論文「『共産党人』発刊のことば」によって知られている。筆者は1963年に台北に滞在していた際、司法行政部調査局の図書館において、ここに所蔵されている多くの雑誌類を閲覧する機会をえた。台北には『共産党人』は残念ながら5期分だけしか所蔵されていなかったが、閲覧の際、わたくしが作った目録によって、この雑誌に載せられている論文名を、『党的生活』誌の内容とともにここに紹介しておきたいと思う(司法行政部調査局図書館の資料状況については、『アジア経済』1965年2月号の拙稿「台北における中共研究と資料の状況」を参照されたい)。

1939年10月に雑誌『共産党人』が発刊された理由について、毛沢東はその「発刊のことば」の中で、次のようにのべている。

「党中央では早くから党内刊行物の出版を計画していたが、いま、それが実現されることになった。全国的範囲での、広い大衆性のある、思想的、政治的、組織的に完全に強固な、ボルシェビキ化された中国共産党を建設するためには、このような刊行物が必要である。その必要性は、当面の時点において、いっそう明らかになっている。当面の時点の特徴は、一方では、抗日民族統一戦線内で投降の危険、分裂の危険、後退の危険が日まじに増大していること、また、他方では、わが党がすでに狭いわくからぬけだして、全国的な大きな党になったことである。党の任務は、大衆を動員して、投降の危険、分裂の危険および後退の危険を克服するとともに、おこりうる突発事件のなかで党と革命に予期しない損害をこうむらせないように、おこり

うる突発事件にそなえることである。このような時点において、このような党内刊行物の出版は、まことに必要なことである。

この党内刊行物は、『共産党人』と名づけられる。その任務はなにか。それにはどういうものが掲載されるか。それは党のほかの機関紙とどうちがうのか。

その任務とは、全国的範囲での、広い大衆性のある、思想的、政治的、組織的に完全に強固な、ボルシェビキ化された中国共産党の建設をたすけることである。中国革命の勝利のためにこのような党を建設する必要が切迫しており、このような党を建設する主観的、客観的条件も、すでにだいたいそなわっていて、この偉大な建設工事もげんに進行中である。この偉大な工事の進行をたすける任務は、一般党機関誌がにないものではなく、どうしても専門の党機関誌がなければならない。これが『共産党人』出版の理由である。」

1939年から1944年にかけて、中共は延安の整風運動をはさんで、党の建設問題に関して、きわめて多くの論文を急激に生みだしている(『アジア経済』1965年3月号の拙稿「劉少奇著『共産党員の修養を論ず』の延安原型」を参照されたい)。このような党建設理論の噴出は、毛沢東のことばからもうかがえるように、延安時期以後、抗日戦争の過程で急激に膨張した中共が、党の組織活動の強化と統一を計るために、党員の再教育を必要としたからであった。

『党的生活』は華中の江北党務委員会の編集になるものである。『共産党人』が党中央の機関誌であるのに対して、これは地方的な雑誌である。「発刊のことば」を書いている張雲逸は、1942年には新四軍第二師師長であった。『党的生活』のほかに、この時期における地方的な党務関係の雑誌の中から、主要なものをあげると、中共淮南区委編印『淮海斗争』、中共淮南蘇皖辺区区委編印『淮南党刊』、中共陝甘寧辺区区委出版『団結』、中共淮北区党委組織部編印『党内通訊』、新四軍第四師政治部出版『弘曉雑誌』等がある。これらの雑誌も『共産党人』、『党的生活』と同様に、「党内刊行物」である。『共産党人』の最後のページには、「本刊編委啓事二則」として、次のように記されている。

「(1) 読者は『共産党人』の秘密を守ってもらいたい。

『共產黨人』は党内刊行物であって、閲読は党内同志のみに限定する。『共產黨人』は非売品であり、党外で販売してはならない。『共產黨人』を読む同志は、それぞれその保管に注意し、紛失してはならない。(2)『共產黨人』への投稿を求む。『共產黨人』をよくするために、われわれは、それぞれの戦線での工作をしている同志、特に責任ある地位の同志が、以下の問題についての原稿を多く寄せてくれることを、心より希望し歓迎する。(4)党の建設という事業における各種の問題、(5)党の実際工作に関する総括的文章、(6)学習戦線における心得、質疑、討論、(7)黨員の中での模範的、あるいは立派な行為の紹介」。

△『共產黨人』編輯委員會編、『共產黨人』

<創刊号>1939年10月

毛沢東、「発刊詞」

「中央政治局關於鞏固党的決定（1939年8月25日）」

王稼祥、「為中国共產党的鞏固和堅強而闘争」

洛甫、「共產黨員的權利与義務」

劉少奇、「論公開工作与秘密工作」

陳雲、「鞏固党与戦区の群衆工作」

李富春、「關於新老幹部の問題」

楊松、「關於宣傳鼓動工作及其方式」

孔原、「關於反奸細闘争の錯誤認識」

楊清、「共產黨員被捕時の処理与気節問題」

楊超、「研究党的建設的認識和方法」

「拡大の中共中央第六次全会關於各級党委暫行組織機構的決定」

「拡大の中共中央第六次全会關於各級党部工作規則与紀律的決定」

<第2期>11月

陳雲、「開展群衆工作是目前地方工作的中心」

洛甫、「略談党与非黨員群衆的關係」

李富春、「八路軍作战区の群衆工作」

羅邁、「論党的組織結構与民主集中制」

孔原、「必須把党的警惕性提到最高度」

楊清、「論鞏固陝西的党」

白邨、「自首問題」

（支部通訊）

張鼎丞、「介紹新四軍的一個模範支部」

林楓、「介紹幾種關於支部流動訓練班的方式」

李心清、「獻給做初中或小学教師的同志們」

<第3期>12月

「中央關於吸收知識份子的決定」

趙毅民、「反对恐懼与排斥知識份子的現象」

艾思奇、「共產党与知識份子」

羅邁、「陝甘寧辺区内部的統一戦綫、階級政策与共產党」

王鶴寿、「目前幹部政策中幾個問題」

徐一新、「關於非党幹部工作中的幾個問題」

李兆柄、「消滅資本主義意識在留守部隊中的反映」

<通訊>

蕭林、「晋冀察辺区党組織底党内教育是怎樣進行的」

孫力余、「九十兩月中央直属各機關学校在職幹部學習新的收穫」

楊英傑、「延川禹居区三郷の階級關係及人民生活」

<第4期>1940年2月

「中国革命与中国共產党」

洛甫、「党的工作中的一個基本問題」

若飛、「準備根拠地變為遊撃区的武装斗争」

希晉、「目前戦区遊撃小組の效能及其領導問題」

羅邁、「論党内鉄的紀律」

「總政治部党務委員会、關於開除劉振球党籍的決定」

胡耀邦、「擁護開除劉振球的党籍為党的事業奮闘到底」

李大章、「怎樣開展群衆的社会教育」

<農村通訊>

中央党校、「延川実習団楊英傑等、延川禹居区三郷支部的特点、黨員和幹部」

<第12期>1940年11月20日

「關於在獄同志和救済互の作指示」

「中央宣傳部關於充實和健全各級宣傳部門的組織及工作的決定」

「關於各抗日根拠地文化人与文化人団体の指示」

「中共宣傳部關於各抗日根拠地内党支部教育的指示」

「中央宣傳部關於中日青年的通知」

「中央宣傳部關於提高延安在職幹部教育質量的決定」

王明、「論馬列主義決定策略的幾個基本原則」

高崗、「反对官僚主義」

謝党哉、「論郷市民主制度的重要及其實施」

「一個學生群衆斗争中的經驗」

△『党的生活』編輯委員會編、『党的生活』、江北党務委員會編印。

<創刊号>1941年1月

張雲逸、「発刊詞」

江北黨委會，「關於開除儲精益黨籍的決定」

鄧子恢，「從儲精益逃跑論到黨內思想鬥爭」

張 凱，「關於擴大黨內民主範圍決定執行中的初步檢討」

梁國斌，「鞏固革命的先鋒組織開展反動搖叛變的鬥爭」

陳辛人，「目前宣教方針應注意的幾點」

< 2 期 >

鄧子恢，「對皖南事變的基本認識」

張勁夫，「略論軍隊中黨的組織問題」

江北黨委會，「關於黨員組織關係轉移手續的決定」

江北黨委會，「關於在職幹部教育的決定」

陳辛人，「響應中央關於幹部學習的号召」

鄧德明，「加強對青年工作的領導」

張鼎丞，「介紹新四軍的一個模範支部」

江北黨委會，「關於擴大黨內民主範圍的決定」

< 3 期 >

張 凱，「整訓部隊中的黨」（1941年3月11日）

張勁夫，「論党性鍛鍊」（1941年3月15日）

洪 映，「略談黨內教育問題」（1940年3月）

陳辛人，「幹部教育現狀與改造的意見」

梁國斌，「論革命氣節」

林 擒，「怎樣做黨報通訊員」

啓 琪，「如何開辦短期黨訓班」

余 路，「八路軍支部工作介紹」

廬文新，「特務二連的支部工作」

< 4 期 > 1941年4月

「中央關於時局與政策的指示」（1940年12月）

「中央關於湖西地區反托鬥爭中所表現的嚴重錯誤的決定」（1941年4月20日）

鄭位三，「個人主義與工作作風——在『三一八』政工會議上的發言——」

羅 邁，「陝甘寧邊區內部的統一戰線，階級政策與共產黨」

方志明，「我們怎樣進行創造模範黨員」

< 5 期 >

「關於增強黨性的決定」（中共20週年紀念日，中央政治局）

「加強党性鍛鍊」（解放日報社論）

「中央關於調查研究的決定」（民國30年8月1日）

鄭位三，「關於加強黨性問題，在師直屬隊及四旅黨員幹部會議上的報告」

師政治部，「關於討論加強黨性問題的通知」

師政治部，「關於創造模範支部黨員的指示」

江騰蛟，「一個支部對鞏固部隊工作的經驗教訓」

< 支部通訊 >

方志明，「幹部問題上的新情況」

殿陞，「談談會報制度」

總政治部黨委會，「關於姜齊賢同志錯誤的決定」

< 7 期 >

「師政治部對春季幹部審查工作的指示，師黨委會關於取消在高敬亭錯誤領導下所執行的不正確處分的決定」（1942年1月20日）

饒漱石，「論加強黨性的重要性及如何加強黨性問題」

洛 甫，「提倡樸素與切實的工作作風」

師哲訊，「反對誇張和空喊」（1940年5月2日）

（プラウダ社說）

「中央組織部關於審查幹部經驗的初步總結——中央組織部」

「師政治部初步審查幹部的經驗教訓」

汪佑治，「幹部審查工作中幾點實際經驗介紹」

程 明，「師衛生部幹部審查工作的經驗教訓」

方志明，「略談模範支部（黨員）創造後的工作」

「機關支部工作」（轉載戰士報）

李 水，「一個模範支部在鞏固部隊上經驗的介紹」

樊達夫，「党性鍛鍊的自我檢討」

< 9, 10期 > 1941年5月

區黨委，「邊區黨委關於加強農運限期建立各縣農救的決定」

陳少敏，「加強黨對各級政權的領導」（1941年5月10日）

吳祖貽，「論領導的深入問題」（1941年5月7日）

蘇 星，「論加強敵佔區城市工作」

陳少敏，「遊擊小組在堅持邊區遊擊戰爭中的作用」（5月7日）

區黨婦委，「區黨婦委關於切實建立婦女試驗區的指示信」

顧丈華，「怎樣在支部中開講『黨員須知』」

楊 震，「對李緒施搶叛變事件的認識」

王光力，「縣級幹部審查的一些經驗」

譚扶平，「我們在領導當中的點滴經驗」

王汝輝，「借糧鬥爭」（1941年4月1日）

< 14期 >

區黨委，「關於認真執行三三制和徹底進行民選的決定」（11月20日）

劉 誠，「反清鄉運動中關於應對被補致各地同志——

封信」

演 風,「反清郷斗争中各支部展開反自首教育」

温 英,「克服清洗工作中的不良傾向」

<信陽通訊>

長 城,「開陳小地主影响全支部的教訓」

<京山通訊>

無 名,「一個農民同志在党校的驚人進步」

夏 夔,「我們的党校(生活剪影之一)」

(原文まま)

叶 杭,「討論魏西同志的錯誤在党委机関支部」

「張李一山同志的信」

浩 風,「覆孝感任曉仁同志的信——怎樣提高黨員的革命熱情」

黄善平,「分区級幹部第一次測驗答案」

文 耀,「名詞解釈,党性・組織觀念・政策,主觀主義与形式主義」

「給組織員的第七封信」

<17期>民国31年3月

吳祖貽,「打通調查研究工作中的兩堵障壁」

李兩膏,「展開調查研究」

「××党在友軍新年半月遊擊中開展交友工作的經驗——吳祖貽」

陳少敏講,「保衛互作的重要性」

劉慈礼,「同志・切莫違背了你自己的哲詞,嚴守党的秘密」

濟 文,「加強地方機関学校的防謀工作」

吳師筑,「加強地方軍的防謀工作」

金 錫,「克服我們鋤奸工作中的不良傾向」

「区党委關於開展春耕運動的指示」

(調査研究部東アジア調査室 徳田教之)

中国の經濟發展と對外貿易

—— 研究参考資料 第62集 ——

米 沢 秀 夫 編

第1章 中国国民經濟發展のテンポとその特徴

—— 指導原理の確立と工業化：国民經濟の發展テンポとそれを推進する基本方針：工業化と計画化・均衡化政策の推移：社会主義制度下の物資不足問題：經濟の波型發展の原因,およびそれと設備投資の關係 ——

第2章 中国の經濟建設と国民生活における物資需給

—— 人口問題と工農業間の労働力配置：労働者と農民の生活水準：消費物資の需要と供給 ——

第3章 国民經濟における對外貿易の役割と貿易方式

—— 中国の對外貿易依存度：對外貿易の發展テンポと經濟成長率：パートナー・グループ別貿易方式とその特徴：對外貿易の決済方式：對外貿易における価格の問題 ——